

## News Release

「公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団」

令和8年度

### 地域の伝統文化分野 助成対象先を決定

公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団（1991年6月設立・理事長 関口憲一）では、地域の伝統文化（民俗芸能および民俗技術）の継承、特に後継者の育成を支援するため、昨年10月から令和8年度『地域の伝統文化保存維持費用助成』制度の助成対象候補を公募してまいりました。

このたび応募164件の選考を終えて56件の助成対象を決定し、助成金目録の贈呈を行なうこととなりましたので、ここにお知らせいたします。

なお、今回の決定を含めた本制度による助成件数の累計は、当財団設立以来1,574件になります。

#### 【お問い合わせ先】

公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団

〒163-0633

東京都新宿区西新宿1-25-1

新宿センタービル33階

TEL. 03-3349-6194

FAX. 03-3345-6388

## 1. 公募方法と公募期間

都道府県の教育委員会または知事部局の担当課を推薦窓口とする公募を、令和7年10月から令和7年12月31日まで行ない、164件の申込みを受け付けた。

## 2. 助成対象

- (1) 地域の民俗芸能（民俗行事・民俗音楽を含む）の継承、特に後継者育成のための助成。
- (2) 地域の民俗技術（伝統的製作技術・衣食住に関わる生活技術・伝統工芸を含む）の継承、特に後継者育成のための助成。

## 3. 助成対象者の決定

選考委員会における選考審査（2月18日）を経た後、理事会（3月4日）の承認を得て決定。

### 【伝統文化分野選考委員】（敬称略）

委員長	星野 紘	全日本郷土芸能協会理事長
委員	神野 善治	武蔵野美術大学名誉教授
〃	齊藤 裕嗣	日本芸術文化振興会プログラムディレクター（伝統・大衆）
〃	田中 宣一	成城大学名誉教授
〃	茂木 栄	國學院大學名誉教授
〃	山内 彰	当財団元理事

## 4. 助成決定件数・助成金額

### (1) 令和8年度 部門区分別 助成決定件数・金額

部 門	申込件数	決定件数	助成金額
民俗芸能	155件	53件	2,680万円
民俗技術	9件	3件	120万円
合 計	164件	56件	2,800万円

(注) 都道府県別の助成対象および金額等は、3～7頁(民俗芸能の部および民俗技術の部)をご参照願います。

## (2) 助成件数・金額の推移 (金額単位: 万円)

年度	民俗芸能		民俗技術		合 計	
	助成件数	助成金額	助成件数	助成金額	助成件数	助成金額
平成3年	24	1,717	5	229	29	1,946
4年	29	1,960	5	190	34	2,150
5年	30	1,958	5	200	35	2,158
6年	34	2,060	6	240	40	2,300
7年	38	2,310	5	190	43	2,500
8年	41	2,550	6	250	47	2,800
9年	41	2,670	6	230	47	2,900
10年	43	2,800	4	140	47	2,940
11年	44	2,845	4	155	48	3,000
12年	43	2,740	6	260	49	3,000
13年	42	2,740	8	260	50	3,000
14年	38	2,590	10	410	48	3,000
15年	33	1,590	2	60	35	1,650
16年	31	1,525	5	125	36	1,650
17年	37	1,650	0	0	37	1,650
18年	35	1,666	2	80	37	1,746
19年	37	1,780	2	70	39	1,850
20年	39	1,810	1	40	40	1,850
21年	38	1,740	4	110	42	1,850
22年	39	1,735	3	115	42	1,850
23年	41	1,814	1	36	42	1,850
24年	48	2,122	6	185	54	2,307
25年	40	1,775	2	75	42	1,850
26年	41	1,802	3	98	44	1,900
27年	40	1,746	4	104	44	1,850
28年	41	1,800	2	50	43	1,850
29年	42	1,811	1	39	43	1,850
30年	41	1,775	2	75	43	1,850
令和元年	39	1,736	3	114	42	1,850
2年	39	1,740	3	110	42	1,850
3年	42	1,813	1	37	43	1,850
4年	43	1,820	2	80	45	1,900
5年	47	2,075	1	25	48	2,100
6年	57	2,061	4	139	61	2,200
7年	52	2,135	5	165	57	2,300
8年	53	2,680	3	120	56	2,800
合計	1,442	73,141	132	4,806	1,574	77,947

## 5. 助成金目録の贈呈

第一次推薦者(市町村教育委員会等)の庁舎、もしくは最寄りの明治安田生命支社において贈呈式を行なう予定。

# 2026年度 地域の伝統文化 助成対象 (敬称略)

1. 民俗芸能の部 (民俗行事・民俗音楽含む)

53件 2,680万円

地域	フリガナ	助成額 (万円)	活動の概要
	申込団体または個人		助成目的
	伝承行事・芸能・技術の名称		
北海道	フクシマダインジウグウサイレキョウレツホソノカイ	26	元禄5年(1692)執行記録がある祭礼行列。福島大神宮秋祭に奴行列・四ヶ散米行列が巡行。山車10数台も随行。囃子は祇園ばやし等12曲継承。道南の伝統芸能の変遷を伝える重要な文化財
	福島大神宮祭礼行列保存会		
	福島大神宮祭礼行列		
北海道	アイベツギフシカグラホソノカイ	60	明治29年岐阜県からの入植者が伝えた白山神楽が始まり。一時衰退、昭和42年保存会結成し復活。愛別神社歳大祭に奉納。14演目継承。幕間に笛・太鼓による「打ち込み」が入るのは全国的に希少
	愛別岐阜獅子神楽保存会		
	愛別岐阜獅子神楽		
青森県	イチカワカグラ	50	明治期創始、市川地区の山伏神楽。八戸市内で継承する10団体の一つ。一時中断、昭和22年近隣団体から学び復活。白髭神社・湊町大裕神社夏祭に奉納。幕獅子も行なう。8演目継承。権現様(獅子頭)4体を保有
	市川神楽		
	市川神楽		
青森県	オダノサワフシノカイ	60	江戸後期創始の餅つき踊り。東通村の5地区で継承。旧正月の1月15日・16日に婦人たちが各戸を巡回、田植え唄と口上を延べ餅つき踊りを披露。9演目継承。小太鼓・手平鉦・唄にあわせ臼を囲み杵を手で踊る
	小田野沢婦人会		
	東通の田植え餅つき踊り		
岩手県	キキリシノドリホソノカイ	35	江戸期に鹿島・香取神宮大祭の鹿子舞にまねて創始。震災の困難な状況下、「霊呼」奉納の思いから再開。天照御祖神社夏祭に奉納。激しく打ち鳴らす太鼓にあわせた力強い跳躍、素早い足運びは県内でも希少
	吉里吉里鹿子踊保存会		
	吉里吉里鹿子踊		
岩手県	ナカスカダイカグラホソノカイ	35	江戸末期に盛岡の「七軒丁」に習った太神楽。小槌神社秋祭に奉納。震災翌年に道具・衣装を再度整備。慶事や結婚披露宴等の祝事にも上演。悪魔を剣で切り払い退治する四方固めの舞を継承
	中須賀大神楽保存会		
	中須賀大神楽		
宮城県	ジュウサンハマジノホソノカイ	60	江戸期創始の郷土民謡。太平洋沿いの十三浜地区の浜甚句として継承。昭和20年代に後藤桃水が流布。平成元年保存会発足。各種行事で広く歌われる。方言を重要視した歌詞が特徴、踊りも併せ継承
	十三浜甚句保存会		
	北上町十三浜甚句		
秋田県	ヨコチョウワカモノカイ	20	江戸末期創始の盆踊。8月19・20日の花輪祭終了直後から中秋の名月まで、10町内で実施。12曲継承。三味線・太鼓・鉦・唄にあわせ、軽快なテンポで多様な所作を披露。足運びは男性の舞、江戸の粋を伝える
	横丁若者会		
	花輪の町踊り		
山形県	カミノヤマホンコテキガクホソノカイ	60	慶應年間(1865~67)創始の西洋式軍楽。明治維新後も旧藩士により保存・伝承。月岡神社春・秋祭に奉納・演奏の他、幅広く活動。楽隊は大大鼓・小太鼓・篠笛で編成。4曲口承。全国に残る鼓笛団体は他に1カ所のみ
	上山藩鼓笛楽保存会		
	上山藩鼓笛楽		
福島県	ナガヌマボンドリホソノカイ	38	豊臣秀吉の長沼城入城を機に創始された盆踊。戦後、青年団が再開。昭和40年保存会結成。25年間の中断を経て令和5年復活。ゆっくりとしたリズムで日本舞踊のような優雅さは、旧長沼町の他の行政区と一線を画す
	長沼盆踊保存会		
	長沼盆踊り		
茨城県	ニシマルヤマキウハヤシホソノカイ	53	江戸初期創始。一時中断、戦後復活。毎年1月、鹿島神社に「初囃子」を奉納。大八車の前側に米三俵と天狗面、後方に大大鼓・小太鼓を載せ笛・鼓・鉦・拍子木を奏でつつ地区内を巡行
	西丸山祈禱囃子保存会		
	西丸山祈禱囃子		
栃木県	サンボンギシジマホソノカイ	44	寛永年間(1824~43)創始。火災・凶作等で中断、文挾流を学び復活。三本木延命地藏尊春祭に奉納。演者が仕度笛により地藏堂内で獅子頭・花笠をつけ、堂前の庭にて舞を開始。獅子が唄いながら舞う
	三本木獅子舞保存会		
	三本木獅子舞		

群馬県	ツバキナジシヤクダイカグラホヅンカイ	20	大正6年創始の里神楽。椿名神社春秋祭に奉納。9舞継承。着面し御幣・矛・剣・小槌・扇・鈴を手に持ち、笛・大太鼓・小太鼓にあわせ踊る黙劇。神話を題材に五穀豊穡・商売繁盛を願う庶民性が特徴
	椿名神社太々神楽保存会		
	椿名神社太々神楽		
埼玉県	ジウシジヨウルリニギョウホヅンカイ	42	江戸後期創始の人形芝居。大正期中断、昭和41年古老に学び復活。萩神社春祭に上演、秩父人形サット(隔年)にも出演。大阪文楽系の三人遣い。時代物・世話物・新作の4演目をバランス良く継承
	出牛浄瑠璃人形保存会		
	出牛の人形浄瑠璃(人形芝居)		
埼玉県	オオイカミグミハヤシホヅンカイ	60	江戸後期創始の神田囃子が伝わる。大井氷川神社夏祭に奉納。明治期に上組と旭(中組、下組)に分離。太鼓・笛・鉦の演奏で獅子舞・天狐・カメ・外道を踊る。4曲継承。口承による演奏技法・リズム・掛け声が独特
	大井上組囃子保存会		
	大井はやし		
千葉県	フクロオハヤシホヅンカイ	60	江戸後期に香取郡小見川町から学んだ阿玉川流お囃子。一時中断、25年前に青年団員・OBにより復活。祝事等で獅子舞・下座踊りが入ると、「早馬鹿」の撥数が大野が特徴。市の伝統芸能イベントの常連
	袋お囃子保存会		
	袋のお囃子		道具購入費
東京都	ハクサンジシヤクハヤシレン	37	明治前期創始の祭囃子。一時中断、昭和49年豊玉囃子に学び再開。白山神社秋祭に奉納。笛1・小太鼓2・大太鼓1・鉦1で構成、神輿・曳太鼓とともに町内を巡行。小学生～高校生の会員を大人が技術指導
	白山神社囃子連		
	練馬白山神社囃子		
東京都	ヤハハチマングウシマイホヅンカイ	60	戦国後期創始の市内最古の獅子舞。箭幹八幡宮秋祭に「道行」「御庭舞」を奉納。腰に五色の御幣をつけた剣・巻・玉の三匹の立獅子が幣追いに統率され、優雅に舞う。氏子60数軒が担う「獅子宿」は希少な制度
	矢部八幡宮獅子舞保存会		
	矢部八幡宮獅子舞		
新潟県	ロクヤマツリユミホドリホヅンシコウカイ	50	宇奈具志神社に伝わる弓踊り。8月16日、神社から出田明神への夜神輿巡行の帰途に、中学生16人が烏帽子・赤装束姿で弓・弓矢を持ち、笛・太鼓にあわせ踊る。刀持ち・馬乗り・鉄砲持ち・花かざきも随行
	六夜祭弓踊保存振興会		
	六夜祭弓踊		
新潟県	カミヨコヤマセイネンカイ	60	佐渡島特有の鬼太鼓の一つ。昭和30年代中断、昭和40年代に復活。金峯神社春祭に奉納。集落80戸を巡行。島内でも様式を重んじる「潟上型」の系統。獅子を伴わず一対の鬼が「二人踊り」するのが特徴
	上横山青年会		
	上横山鬼太鼓		
富山県	ヌノハシカンジョウエジッコウイインカイ	60	江戸後期創始の女人救済儀式。明治初期廃仏毀釈で途絶、平成8年138年ぶり復活。3年に一度、秋彼岸に挙行。白装束に目隠しの女性が立山登拝拠点の芦峯寺集落にある朱色の布橋に敷かれた白布の上を歩く
	布橋灌頂会実行委員会		
	布橋灌頂会		人材育成費
石川県	ノイチホネヤサイゴシホヅンカイ	50	明治期創始の五穀豊穡・商売繁盛を祈願する行事。一時中断、昭和50年復活。季節野菜を装飾した神輿を布市神社秋祭に奉納。老若男女が担ぐ神輿が巫女(子供)とともに町内を巡行。野菜神輿は全国でも希少
	野々市豊年野菜神輿保存会		
	豊年野菜神輿		
福井県	タカハマシチネマツリホヅンカイ	60	永禄12年(1569)実施記録がある祭礼。七年祭は、巳年と亥年の六年毎開催の佐伎治神社の式年大祭。3基の神輿(東山・西山・中の山)と7基の山車が町内を盛大に巡行。継承する太刀振りとは21演目
	高浜七年祭保存会		
	高浜七年祭(太刀振り・御田植・神楽)		
山梨県	コアシフジセンケンジシヤクダイカグラホヅンカイ	60	江戸中期創始の神楽舞。小明見富士浅間神社春祭等に奉納。十二座から成り、5種類の舞と「五人ばやし」を継承。元旦祭・追儺祭・お供日祭・七五三祭・除夜祭にも舞う。「五人ばやし」は少女五人が優雅に舞う
	小明見富士浅間神社太々神楽保存会		
	小明見富士浅間神社の神楽舞		
長野県	スザガシ ノヘマチカグラホヅンカイカイ	20	明治初期創始の伊勢系神楽。戦後衰退、昭和40年代後半に神楽会結成し復活。桐原豊守神社春秋祭に平舞・狂いの舞を奉納。30年振りに復活した伊勢音頭は口三味線・前口上・唄と続き、悠長な節回しは独特
	須坂市 野辺町神楽保存会		
	野辺町の神楽と伊勢音頭		
長野県	シモジヨウムラカギキホヅンカイ	44	享保4年(1704)創始の村歌舞伎。明治期に盛行。昭和46年保存会結成。毎年11月に定期公演。村独自の5演目を自前の義太夫・三味線で演ずる
	下條村歌舞伎保存会		
	下條歌舞伎		
			道具購入費

岐阜県	ニホボーイスカウト ギフダイ16ダン	60	室町期創始の岐阜まつり宵宮の踊山車奉曳。江戸初期に盛行。昭和63年伊奈波神社氏子から踊山車・囃子を継承。山車はカケ等々の装飾はなく、提灯・緞帳のみと簡素。団員総出で奉曳する
	日本ボーイスカウト 岐阜第16団		道具購入費
	岐阜まつり 曳山行事		
岐阜県	サカシタハナウマホヅンカイ	50	寿永3年(1184)創始、絶えず継承。坂下神社秋祭に奉納。下組・合郷組・町組が、365本の花串を立てた木曾馬3頭が先導する組行列を馬元から神社まで練り歩く。太鼓・鼓・篠笛で1組10人の囃子を構成
	坂下花馬保存会		衣装購入費
	坂下の花馬祭り		
愛知県	コムカエクホウオウシヤホヅンカイ	50	江戸期創始の神輿奉納に大正末期山車6台が加わる。武雄神社春祭に山車・囃子とともにからくり人形奉納。当地区の鳳凰車は文久3年(1863)作、からくり人形3体が演ずる倒立・面かぶり・肩車の芸は全国的に希少
	小迎区鳳凰車保存会		衣装・道具購入費
	「鳳凰車」のからくり人形		
愛知県	オワリアサヒシアライチクマノトウホヅンカイ	40	江戸後期創始の献馬行事。多度神社秋祭に西組・東組が1頭ずつ馬を奉納。厄年男性の馬付きに馬頭1・口取り2・綱付き10の13人が随行。棒の手隊・鉄砲隊とともに神社に行進。「ころも」を喰い馬を引くのは希少
	尾張旭市新居地区馬の塔保存会		道具修理費
	新居地区の馬の塔		
三重県	ヒナガツツクオトリホヅンカイ	50	元和6年(1620)の記録ある盆踊。昭和31年保存会結成。西聖寺夏祭、大四日市まつりに諏訪神社で踊る。櫓の周囲を二重三重で囲み、太鼓・笛の囃子にあわせゆつたりと踊る。地付き・地固めの踊りを含め3種類継承
	日永つんつくおどり保存会		衣装購入費
	日永つんつく踊り		
三重県	ヲウシカンコオトリホヅンカイ	60	天正年間(1573～93)創始の盆踊。海念寺で供養と踊り催行。初盆の家を巡る。最後に公民館前での魚供養・大漁祈願が独特。30種継承。4名の踊り子が法被・花笠姿で鞆鼓を叩きながら音頭取りによる輪唱にあわせ踊る
	獵師かんこ踊り保存会		道具・衣装購入費
	獵師町のかんこ踊り		
滋賀県	ウエノウトウウカブ	45	室町期創始の奴振。江戸期に五頭が輪番で、明治初年から上野頭のみ継承。油日神社春祭に5年に一度奉納。奴行列は頭殿に長持奴・鉄箱奴・毛槍奴等が供奉。甲賀侍衆による社参行列を再現した貴重な行事
	上野頭頭殿株		道具購入費
	油日の奴振		
大阪府	ツツヤマチョウカイ	60	宝暦2年創始の錦織神社祭礼(だんじり祭)。明治初期製作の地車を保有。令和4年若年層中心に保存会結成。錦織神社秋祭に宮入、俄(にわか)を奉納。奉納俄「河内俄」は上方演芸の元祖
	廿山町会		道具購入費
	だんじり祭		
大阪府	キリヤマキルイタイサイホヅンケイシヨウシツコウインカイ	54	江戸中期創始の建水分神社秋祭り(だんじり祭)。千早赤坂村5地区を含め18台のだんじりが宮入。石川型地車を所有。前部に張り出した縁を舞台代わりに俄芝居をするため「俄だんじり」と称す
	桐山秋の禮大祭保存継承実行委員会		道具修理費
	だんじり祭		
兵庫県	コサツキマツリ「サノウタ」ホヅンカイ	70	平安後期創始の棹の唄。大正期まで遊女が奉納。中断数度を経て昭和48年復活。同51年保存会結成し継承。巫女役の少女20人が室津賀茂神社春祭に奉奏。下がり端三段尾の拍子で歌う詞章は能楽「室君」と類似
	小五月祭「棹の歌」保存会		道具修理費
	棹の歌		
和歌山県	オハラタダシジリホヅンカイ	40	江戸中期橋本市内の秋祭にだんじりが参加。相賀八幡神社秋祭に9地区のだんじりが宮入。だんじりは明治2年作の岸和田型。囃子は大大鼓・小太鼓・鉦で奏す。当地の秋祭は放生会に由来
	小原田だんじり保存会		道具修理費
	小原田地区のだんじり		
鳥取県	シモフナオカジンジャ	60	寛永4年(1627)創始。3年に一度、下船岡神社夏祭に奉納。榊50人・神輿100人を含め、幼・少・青・壮・中・老の総勢300人が古式に則り運行。夜に境内で行なう榊と神輿の「練り合い」は迫力満点
	下船岡神社		道具修理費
	下船岡神社神幸祭		
岡山県	イチバヤハチマンジンジャシシマイホヅンカイ	70	貞享2年(1685)記録の獅子頭を持つ獅子舞。一宮八幡神社秋祭に奉納。3頭の雄獅子が太鼓・笛に合わせて力強く舞う。5舞継承。竹ノ内流武術の流れを汲む棒使いの演武を含む
	一宮八幡神社獅子舞保存会		道具修理費
	一宮八幡神社獅子舞		
広島県	カンケンサイオオチヨウチンコウノウラホヅンカイ	60	元禄14年(1701)創始。宮島管弦祭で江田島の田頭家ががり火で御座船を導いたのが起源。昭和23年「厳島神社御用」が許与された。7～8月の大潮の日に挙行。平安期創始の祭礼行事の中で貴重な役割を継承
	管弦祭大提灯幸ノ浦保存会		道具購入費
	田頭家大提灯献灯行事		

広島県	サンバカグラダン	60	明治初期創始。一時中断、昭和45年保存会結成し復活。山波良神社秋祭に餅搗神事とともに奉納。18演目継承。頭を切る(頭をひねる)、一舞後に必ずバックしながら舞い返す、片足飛びで舞う等の動作が独特
	山波神楽団		
	山波神楽		
徳島県	クシキシマイホヅンカイ	70	江戸期創始市指定無形民俗文化財「鳴門市の獅子舞」の一つ。一時中断、昭和64年保存会結成し復活。八幡神社・妙見神社秋祭に奉納。8演目継承。大小太鼓にあわせ獅子2頭が演目の途中で交代し舞う
	楡木獅子舞保存会		
	楡木の獅子舞		
香川県	リョナンノオヤコシマイホヅンカイ ヤツホノオヤコシクミ	60	江戸後期創始。大正期に子獅子を導入。絶えず継承。昭和55年矢坪獅子組と中筋獅子組が「綾南の親子獅子保存会」を結成。春日神社秋祭に奉納。強く成長する子獅子の姿を表現するストーリー性がある
	綾南の親子獅子舞保存会 矢坪親子獅子組		
	綾南の親子獅子舞		
香川県	サリョウアマガサカグラホヅンカイ	20	江戸期創始の編笠神楽。奥津荒神社秋祭の奉納。15舞継承。神職神楽の影響を受けつつ「王婆」等独自の演目継承。笛・太鼓・摺り鉦にあわせ優雅に力強く舞う。手作りの火薬綿を青竹に付け回す「大火」は見所
	佐料編笠神楽保存会		
	佐料編笠神楽		
愛媛県	オオタケイツシカホヅンカイ	57	昭和7年創始の鹿踊。一時衰退、昭和49年役場職員・青年が保存会結成し復活。三島神社秋祭に奉納。雄鹿4頭・雌鹿1頭に扮した舞手が哀愁に満ちた歌と太鼓にあわせ優美、繊細に舞う
	大竹五ツ鹿保存会		
	大竹五ツ鹿		
福岡県	キタクマスリュウホヅンカイ	59	享保年間(1716～36)創始。度々中断、昭和42年(北徳益)親和会により復活。愛宕神社秋祭に奉納。赤鬼・青鬼・小獅子3が鉦・謡にあわせ舞う。3舞継承。大太鼓を力強く打ちシャグマを振り乱し力強く舞う躍動感が特徴
	北徳益風流保存会		
	北徳益風流		
佐賀県	タテナカワウチリュウホヅンカイ	24	宝暦年間(1751～64)創始の舞浮立。コロナ禍にも絶えず継承。立野川内八幡神社秋祭に奉納。笛・太鼓・地囃子にあわせ踊り手が太鼓を打つ。他にはない「虎浮立」を含め14演目継承
	立野川内浮立保存会		
	立野川内の浮立		
長崎県	タノウラホヅンカイ	45	江戸後期、諫早から伝わった雨乞踊。矢上くんに4年に1度、年番町として出演。笛・鉦・太鼓・掛打・行列・扇子等、子供から大人までが参加。楽器は口承。笛は長崎くんに出演。鉦は江戸期の作
	田ノ浦本浮立保存会		
	田ノ浦本浮立		
熊本県	ロツカシマイホヅンカイ	60	織豊期創始とされる獅子舞。六嘉神社秋祭に奉納。雌雄2頭の獅子が愛情交換の様を描く「モヤ」と、20mの梯子に交互に登り先端の牡丹の花を投げる「タナ上がり」は、全国でも類例がない舞
	六嘉獅子舞保存会		
	六嘉獅子舞		
熊本県	タシマカグラホヅンカイ	60	明治初期の姫神楽から始まる。現在の神楽は昭和初期熊本市高橋稲荷神社から伝授、岩戸神楽の流れ汲む。田島菅原神社各祭奉納。古面着けた鬼神と神主の二人舞「国津問答集」は勇壮な所作・問答が見所
	田島神楽保存会		
	田島神楽		
大分県	キタバルニンギョウシハイホヅンカイ	60	鎌倉期創始の人形芝居。昭和末期に衰退、平成3年保存会結成し再興。原田神社の万年願に奉納。一体の人形を三人で操る「三人遣い」に加え、平成13年に一体の人形を一人で操る「はさみ遣い」を復活
	北原人形芝居保存会		
	北原人形芝居		
宮崎県	フナヒキウスタイコロホヅンカイ	52	江戸期創始の臼太鼓踊り。日露戦争で中断、昭和28年保存会結成し復活。敬老の日に八幡神社・船引大將軍神社へ奉納。五穀豊穰・牛馬息災・家内安全を祈願する神事「牛馬講」の中で踊る
	船引臼太鼓踊り保存会		
	船引臼太鼓踊り		
鹿児島県	アケネシハルグミナカタジヤカンマイホヅンカイ	60	藩政期から当地に伝わる神舞。17年間中断、昭和61年保存会結成し復活。8年に一度南方神社夏祭に本奉納。7舞継承。舞子28人が7日間の「宮籠り」を経て舞う。宝暦年間(1751～63)製作の「翁面」「鬼神面」保有
	阿久根市波留区南方神社神舞保存会		
	波留区の神舞		

2. 民俗技術の部（伝統的製作技術・衣食住にかかわる生活技術・伝統工芸を含む）

3件 120万円

地域	フリガナ	助成額 (万円)	活動の概要
	申込団体または個人		助成目的
	民俗文化財の名称		
山形県	シンジョウカメヤオリテンショウキョウカイ	40	江戸後期創始の絹織物製作技術。明治末期に途絶。昭和60年伝承協会設立し復活。「斜文織」という高度な手織りで着物1反製作は4ヵ月必要。10数種類の模様を復元。撚りのない生糸を使う後精練は独特の風合い 技術指導費
	新庄亀綾織伝承協会		
	新庄亀綾織制作技術		
長野県	カセイナイジエンカウシカイ	40	江戸中期創始の花火製作技術。上清内路諏訪神社秋祭に奉納。飢饉や戦争中も絶えず継承。奉納の最後に2mの竹筒「三国柱」を次々に点火する「大三国」を披露。火薬製造から打上まで一貫して行なうのは希少 道具購入費
	上清内路煙火同志会		
	清内路村の手造り花火		
島根県	イナワラウナンシダ	40	昭和初期創始。担い手高齢化により中断、令和年4月「稲わらの雲南よしだ」設立し復活。赤穂緋を素材に「鶴亀」や三重の注連縄を製作。鶴亀の大額縁は出雲大社奉納。種蒔から藁細工加工まで地域内で完結 記録動画作成費
	稲わらの雲南よしだ		
	雲南・吉田の藁細工技術		

## 財団案内

### 財団の目的

明治安田クオリティオブライフ文化財団（理事長：関口憲一）は、音楽における人材育成ならびに地域の伝統文化の保存維持、および後継者育成に対する助成などを行ない、もって国民生活の質的向上ならびにわが国文化の発展に寄与することを目的としています。

財団の概要

### 【財団の概要】

名 称	公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団 THE MEIJI YASUDA CULTURAL FOUNDATION
設 立	平成3年（1991年）6月10日
主務官庁	内閣府
基本財産	14億4,800万円（2025年3月末日現在）
事業内容	・音楽分野における若手芸術家の人材育成に対する助成 ・民俗芸能等地域の伝統文化の保存維持、後継者育成に対する助成 ・芸術文化活動に関する調査研究、出版物の刊行
事業計画	○クラシック音楽分野における若手音楽家の人材育成に対する助成 ・海外における音楽研修に対する助成 ・国内音楽学生に対する奨学援助 ○民俗芸能等地域の伝統文化の保存維持、後継者育成に対する助成 ・地域の民俗芸能（含、民俗行事、民俗音楽）の保存維持、後継者育成のための助成 ・地域の民俗技術（含、伝統的製作技術、衣食住に関わる生活技術、伝統工芸）の保存維持、後継者育成のための助成
事業成果	これまでの累計助成状況（2026年3月現在） ・音楽分野 635件 10億7,994万円 ・伝統文化分野 1,574件 7億7,947万円
出捐企業	明治安田生命保険相互会社